

「A」次の文の(訳)の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 かまへてよくよく宮仕へ、御心に違ふな。(平家物語)

(訳) 「」 「しつかりと奉公し、(成親卿の)お心に背くな。

①信頼して ②警戒して ③注意して ④希望して

2 この殿は、おほかた歌のありさま知りたまはぬにこそ。(宇治拾遺物語)

(訳) この殿は、「」 「和歌の有様をご存じで「」ことである。

①少しもくはない ②ほとんどくはない ③まったくくはない ④思ったとおりにくはない

3 正月一日、言忌みもしあへず。(紫式部日記)

(訳) 陰暦正月一日、言忌みも「」。

①最後までしきれない ②まったくできない ③する必要はない ④中断もできない

4 人の泣き騒ぐ音の聞こゆるに、いとゆゆしく、ものもおぼえず。(紫式部日記)

(訳) 人の泣き騒ぐ音が聞こえるので、(私は)とても怖くて、「」。

①じっと我慢している ②心配している ③何も言えずにいる ④呆然としている

5 いとしもおぼえぬ人の、おし起こして、せめてもの言ふこそ、いみじうすさまじけれ。(枕草子)

(訳) それほど親しく思われない人が、(眠そうにしている人を)揺り起こして、「」話しかけるのは、とても興ざめだ。

①無理やり ②一生懸命 ③長々と ④こっそりと

6 歌など詠むは世の常なり。かく折にあひたること(漢詩句)なん言ひがたき。(枕草子)

(訳) (こんな時に)歌などを詠むのは「」。このようにその時の状況に合った漢詩句は口にしがたいことだ。

①ありきたりだ ②難しいものだ ③時代の流れだ ④おかしいことだ

7 さての人々は皆臆しがちに鼻白める多かり。(源氏物語)

(訳) 「」人々は皆気後れしがちでとまどっている者が多い。

①どうしたことが ②ところで ③そのほかの ④たいていの

8 夢もうつつも、「これはよきこと」と人申せど、させることなくてやむやう侍り。(大鏡)

(訳) 夢も現実も、「これはよいこと(の前ぶれだ)」と人は申しても、「」こともなくて終わることがあります。

①気の利いた ②ちょっとした ③何かが起こる ④たいした

「B」次の文の(訳)の「」に入る語句を答えよ。

9 さればよ。思し疑ふことこそありけれ。(落窪物語)

(訳) 「」。 (わたしを)お疑いになることがあったのだ。

9 「」

10 おのれが身かずならずして権門の傍らに居る者は、深く喜ぶことあれども、大きに楽しむに能はず。(方丈記)

(訳) 自分の身分が「」て権勢のある家の隣に暮らしている者は、心から喜ぶことがあっても、盛大に楽しむことができない。

10 「」

11 野分のまたの日こそ、いみじうあはれにをかしけれ。(枕草子)

(訳) 台風の「」は、とてもしみじみとした風情がある。

11 「」

12 かくて閉ぢめてむと思ふものから、ただならずながめがちなり。(源氏物語)

(訳) (女は源氏との交際を)このまま終わらせてしまおうと思うけれども、「」もの思いに沈みがちである。

12 「」

解答

【新三年生用】 古文単語330三訂版 P280～P289

- 1 「③」
- 2 「③」
- 3 「①」
- 4 「④」
- 5 「①」
- 6 「①」
- 7 「③」
- 8 「④」
- 9 「思ったとおりだ」
- 10 「取るに足りなく」
- 11 「翌日」
- 12 「心が平静ではなく」